

# 令和2年12月期第3四半期 決算説明資料

株式会社sMedio

(東証マザーズ：証券コード3913)

<https://www.smedio.co.jp/>

令和2年10月30日（金）

本資料の無断複写、無断転用はしないで下さい

本資料の要因分析は、当社が適切と考える方法で実施している点、ご理解下さい。



Copyright© sMedio, Inc. All rights reserved.



1. 連結業績概要	…P3
2. 連結決算概要 (PL)	…P4
3. 連結決算概要 (BS)	…P5
4. 形態別連結売上高推移	…P6
5. 連結営業利益・連結経常利益推移	…P7
6. 連結営業利益 (7-9月)	…P8
7. 業績予想修正について	…P9
8. 本資料の取扱いについて	…P10

本資料中の数値は、単位未満切捨てで表記しております。  
なお、端数処理の影響で、各表の項目の合計と合計欄が一致していない場合があります。

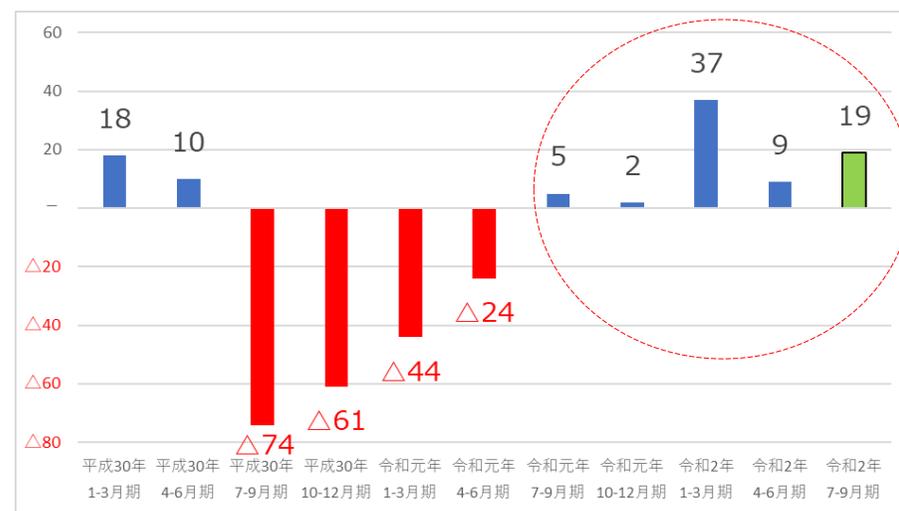
◆ロイヤリティ収入の底上げにより、売上高は前年同期比31百万円の増収。  
 ⇨前期に開発に取り組んだ、4K/8Kテレビ向けのロイヤリティ収入が寄与。

◆当第3四半期(7-9月)は19百万円の連結営業利益を計上。

## ⇨5・四半期連続で連結営業黒字を計上。

◆営業黒字、最終黒字は、資金創出につ  
 ながら、現預金は前期末比182百万円  
 増加して、814百万円となった。

単位：百万円未満切捨て



### 新型コロナウイルス感染症の影響に関する前提

新型コロナウイルス感染症は、しばらくは、現状と同程度の感染状況が続くと想定しております。

当社グループの開発への影響は、若干のスピードダウンが不可避ですが、開発業務が停止する等といった重大な事態にはならないと考えております。

また、経済活動全般については、新型コロナウイルス感染症拡大前の状態に完全に回復するとは考えにくいですが、10月以降、さらに回復していくものと考えております。

## 2. 令和2年12月期 第3四半期 連結業績概要 (PL)

単位：百万円未満切捨て

	平成30年 1-9月期	令和元年 1-9月期	令和2年 1-9月期	前年同期比	
売上高	779	661	692	31	4.7%
売上原価	406	374	291	△83	△22.3%
売上原価率	52.1%	56.7%	42.1%	△14.6%p	
売上総利益	373	286	400	114	40.0%
販管費	418	350	334	△15	△4.4%
営業利益	△45	△63	65	129	
営業利益率	△5.8%	△9.7%	9.5%	+19.2%p	
営業外収益	5	1	3	1	67.6%
営業外費用	1	0	3	3	707.6%
経常利益	△41	△62	65	128	
特別利益	-	-	-	-	
特別損失	0	-	1	1	
税金等調整前四半期純利益	△41	△62	64	126	
法人税等	0	5	23	17	314.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	△41	△68	40	108	

(当期) ブイログ製  
品関連のWEBサイ  
ト・アプリの除却

(売上高) 前期に開発に取り組んだ4K/8Kテレビ向けのロイヤリティ収入が寄与し、31百万円の増加となった。

(売上原価) 前年同期の4K/8Kテレビ向けの開発費用が多かった反動等で83百万円減少した。

(販管費) 継続的な経費節減に加え、新型コロナウイルス感染拡大により、出張自粛等で発生経費が少なくなり、15百万円減少した。

(営業利益・経常利益) 増収と経費減少により、ともに黒字化した。

### 3. 令和2年12月期 第3四半期 連結決算概要 (BS)

単位：百万円未満切捨て

資産	平成30年 12月末	令和元年 12月末	令和2年 9月末	前期末比
現金及び預金	1,083	631	814	182
売掛金	47	48	26	△22
仕掛品	26	21	35	14
原材料及び貯蔵品	119	374	314	△60
その他	16	24	16	△8
流動資産合計	1,293	1,101	1,207	106
有形固定資産	21	22	21	△1
ソフトウェア	24	43	11	△3
のれん	85	42	23	△19
その他	1	1	1	0
無形固定資産合計	111	58	35	△22
投資その他資産	50	40	35	△4
固定資産合計	183	120	92	△27
資産合計	1,476	1,222	1,300	78

負債・純資産	平成30年 12月末	令和元年 12月末	令和2年 9月末	前期末比
買掛金	49	20	7	△12
短期借入金	124	-	-	-
未払法人税等	6	7	8	1
未払費用	39	53	58	△4
賞与引当金	2	2	17	15
工事損失引当金	-	-	6	6
その他	44	35	56	21
流動負債合計	265	118	149	30
固定負債合計	8	8	9	1
負債合計	274	126	158	32
資本金・資本剰余金	4	1,175	1,164	△11
利益剰余金	219	134	174	40
自己株式	△227	△219	△201	18
その他	1,179	5	3	△1
純資産合計	1,175	1,095	1,141	45
負債・純資産合計	1,450	1,222	1,300	78

株式報酬のための自己株式処分で減少。

前払いしたライセンス費用の払い出しによる減少

#### (資産)

- ・ 現預金は、四半期純利益40百万円を計上し、減価償却費・のれん等の資金流出が伴わない費用もあり、182百万円増加した。

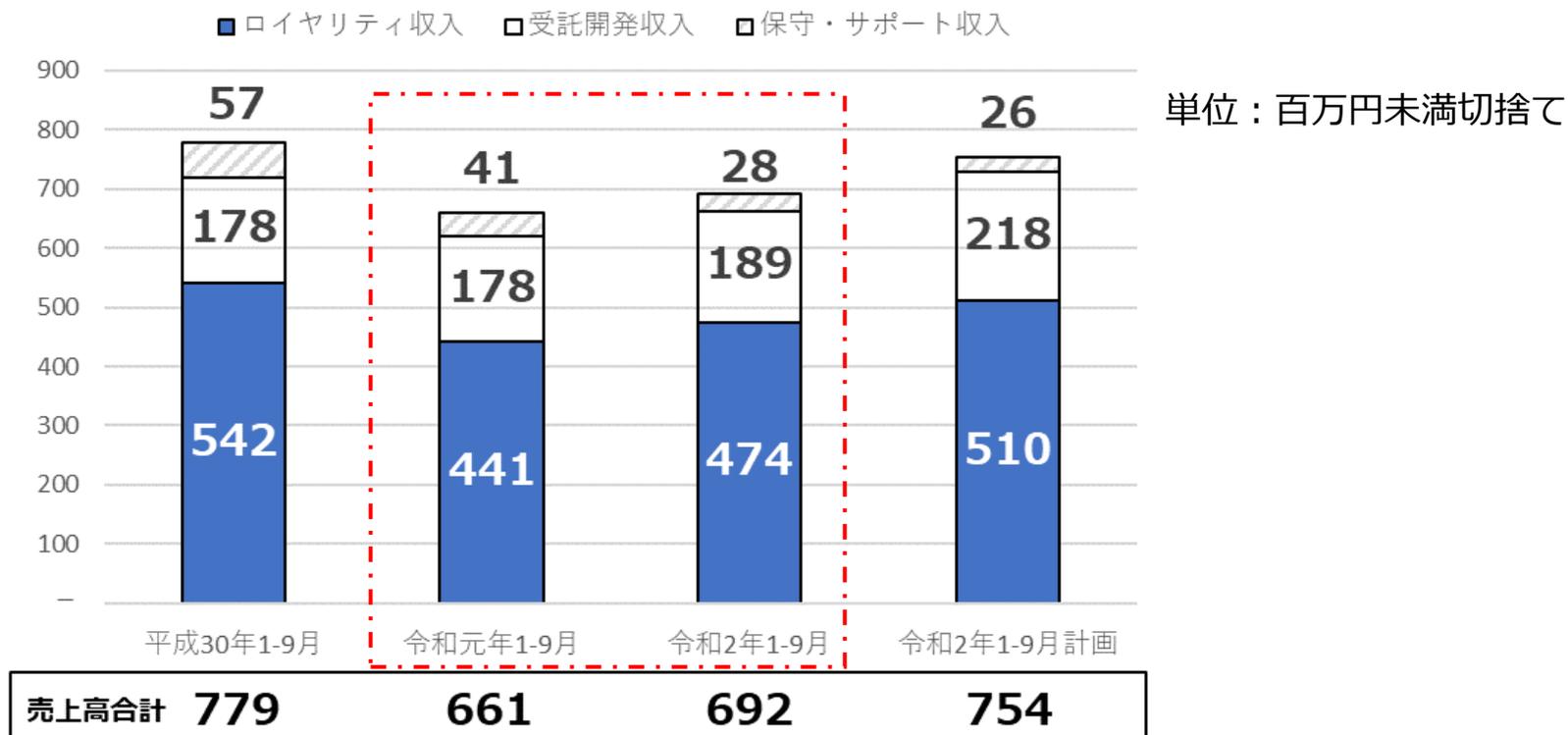
#### (負債)

- ・ 来期のロイヤリティ収入積み上げのための開発案件で、原価が売上を超える見込みの案件があり、工事損失引当金6百万円を計上した。(同時に仕掛品の評価減も実施済)

#### (純資産)

- ・ 四半期純利益40百万円を計上したことで、利益剰余金が40百万円増加した。

## 4. 形態別連結売上高推移



### (ロイヤリティ収入)

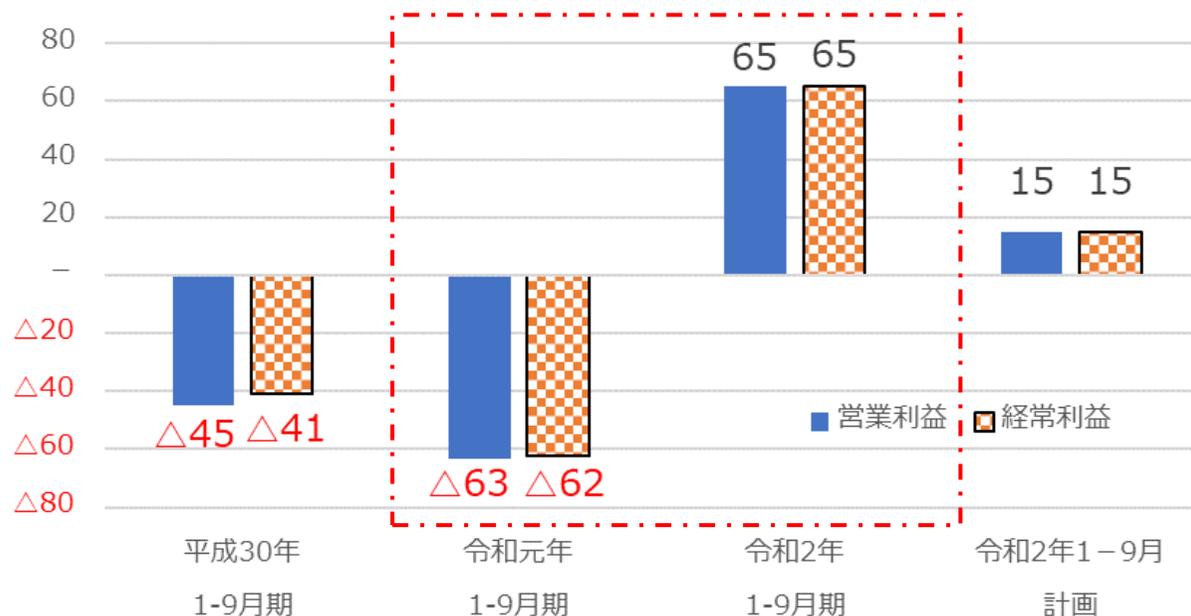
計画していたロイヤリティ案件がなくなった影響や10-12月期に期ずれした案件もあり、計画値には届かなかったが、前期にロイヤリティ収入の底上げのために取り組んだ4K/8K向けの開発の成果が出て、前年同期比では33百万円の増収となった。

### (開発収入)

規模縮小や納期が10-12月期に期ずれした案件もあり、7-9月の開発収入が計画を大幅に下回った結果、1-9月でも計画値を下回ったが、前年同期比では11百万円の増収となった。

## 5. 連結営業利益・連結経常利益推移

単位：百万円未満切捨て



営業利益	△45	△63	65	15
経常利益	△41	△62	65	15

### (営業利益・経常利益)

ロイヤリティ収入が33百万円増加したことで、売上高は前年同期比31百万円増加した半面、前年同期に多額であった開発原価負担が落ち着き、売上原価は減少した。

さらに、継続的な経費節減努力に加え、新型コロナウイルス感染拡大により、出張自粛などで発生経費が少なくなったことにより、営業利益、経常利益ともに計画を大きく上回った。

第2四半期（4-6月）決算の発表時点では、当第3四半期（7-9期）は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響（案件の時期や規模の見直し、商談の決定スピードが遅れる等）が最も厳しくなると見込んでおりました。

実際、開発案件では、第4四半期（10-12月）への繰り越しや案件規模の縮小、失注した案件が発生しました。

一方で、当第3四半期（7-9月）の期間後半になって、新型コロナウイルス感染症拡大による厳しい事業環境で予定していなかった比較的大きな規模の新規案件の獲得ができたことや継続的な費用節減の努力、サーバー費用等の原価低減が進み、営業利益は当初計画（9百万円）を上回る19百万円を計上することができました。

# 7. 業績予想修正について

当期は、通期での黒字を見込む。

営業利益、経常利益は3期ぶり、最終利益は4期ぶりの黒字。

単位：百万円未満切捨て

(参考)

想定為替レート

	平成30年	令和元年	令和2年	前期比		令和2年 12月期 当初計画
	12月期	12月期	12月期			
	実績	実績	修正計画			
売上高	985	862	920	58	6.7%	1,002
売上原価	548	467	406	△60	△12.9%	565
売上原価率	55.6%	54.2%	44.2%	△10.0%p		56.4%
売上総利益	437	394	513	118	30.0%	437
販管費	544	456	442	△14	△3.1%	412
営業利益	△107	△61	71	132		24
営業利益率	△10.9%	△7.2%	7.7%	+14.9%p		2.5%
営業外収益	2	4	3	△1	△31.0%	—
営業外費用	2	0	4	3	906.5%	—
経常利益	△107	△57	69	127		24
特別利益	—	0	—	△0	△100.0%	—
特別損失	0	10	1	△9	△86.6%	—
税金等調整前四半期純利益	△108	△68	68	136		24
親会社株主に帰属する四半期純利益	△110	△84	42	127		10

	当初計画	修正計画
米ドル	108円00銭	105円00銭
人民元	16円00銭	15円50銭

売上高は、当初計画を下回る見込みですが、継続的な経費節減の努力に加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、発生経費が低く推移したこともあり、営業利益、経常利益は当初計画より増加する見込みです。

本資料は、株式会社sMedio（以下、「当社」といいます。）の決算情報の説明のために作成されたものであります。

本資料に記載されている計画や見通し、将来展望などは、本資料作成時点において入手可能な情報に基づき、当社が合理的と考えるものであります。が、これらには、様々なリスクや不確実性が内在しています。

様々なリスクや不確実性には、既知のものもあれば、未知のものもあり、当社が発表している計画や見通し、将来展望、将来の業績などが、実際の業績などと異なる結果となる可能性があります。当社として、それらの実現を保証するものではありません。